

経管栄養チューブからお薬を注入する 患者さん・介護者の皆様へ

薬の投与は『簡易懸濁法』という方法で、^{かんいけんたくほう}経管栄養チューブ(チューブ)を使用して投与します。

簡易懸濁法とは

薬をチューブから注入する場合に、錠剤やカプセル剤を^{ふんさい}粉碎して粉末状にせず、そのままお湯(約 55℃)に入れて錠剤やカプセル剤を^{ほうかい けんたく}崩壊・懸濁させて投与する方法です(完全に溶かす必要はありません)。

簡易懸濁法には以下のような利点があります。

- チューブがつまりにくい
- 服用時に薬の確認ができる
- 薬の変化を防ぐことができる(錠剤を粉末状にすること(「つぶし」)で起こる光・温度・湿度などによる薬の変質や薬効の低下)
- 錠剤・カプセル剤をそのまま使用でき、「つぶし」による薬の器具への付着などによる服用する薬が減るのを防ぐことができる
- 「つぶし」により粉末状になった薬を吸い込む心配が減少する

簡易懸濁法の準備

用意するもの:

- カップ
- 注入器
- お湯(約 55℃) 50 mL～100 mL
(懸濁とフラッシュに必要なため)
- かき混ぜ用器具(スプーンやマドラー、箸など)



約 55℃のお湯の作り方 (だいたい構いません)

3つの方法のうち、調製しやすい方法で行ってください

- 方法1 ポットのお湯 (90～98℃) と水道水を 2 : 1 の割合で混ぜる
- 方法2 電気ポットで 60℃ に設定
- 方法3 水道水 100 mL を電子レンジであたためる (500W、60秒)

簡易懸濁法による投与方法

投与方法には、以下の2つの方法があります。取扱いやすい方法で投与してください。

投与方法 1（カップを使用する法）

1. マグカップまたはコップ等の容器にお湯（約 55℃）を 100 mL（コップ半分）程度作り、別の容器（湯呑、カップなど）に約 20 mL を取り分けます（図1, 2）。
2. 取り分けた 20 mL のお湯の中に 1 回に服用する薬を入れて約 10 分間放置します（図3, 4）。
3. 約 10 分後、スプーンなどでかき混ぜて固まりがないことを確認してから、薬の懸濁液を注入器に吸い取ります。このとき、固形分があれば一緒に吸い取ります（図5, 6）。
4. 注入器をチューブの先端に取り付けて、薬液を注入します。
5. 残っているお湯を、同じ注入器に20 mL 程度吸い取り、再度注入します*。

*この操作を「フラッシュ」と言います。フラッシュをすることで、注入器やチューブに付着している薬を残すことなく全て投与することができます。



図1
お湯（約 55℃）を
コップ半分程度用
意する



図2
お湯（約 55℃）20 mL を
別の容器に入れる。
最初は注入器で量をは
かっても良い



図3
20 mL のお湯をいれた
容器に薬を入れて
崩壊させる



図4
10 分間放置する



図5
かき混ぜて懸濁
させる



図6
薬液を吸い取り、
チューブに注入
する

最後に残っているお
湯でチューブを洗い
流す
（フラッシュ*）

投与方法 2（直接注入器に入れる方法）

1. マグカップまたはコップ等の容器にお湯（約 55℃）を 100 mL（コップ半分）程度作ります。
2. 注入器の押し子を抜き、1 回に服用する薬を注入器内に入れます。この際、粉薬を入れるときにはこぼれてしまうので、注入器を垂直に立てないようにしましょう（図7）。
3. お湯（約 55℃）約 20 mL を注入器内に吸い取り、約 10 分間放置します（図8, 9）。
4. 注入器を振って、注入器の中の液を混ぜます（図10）。
5. 注入器をチューブの先端に取り付けて、薬液を注入します（図11）。
6. 残っているお湯を、同じ注入器に20 mL 程度吸い取り、再度注入（フラッシュ）します。



図7
押し子を抜いて、注入器に薬を入れる



図8
注入器に薬を入れた状態で、お湯（約55℃）20 mL を吸い取る



図9
キャップをつけて約 10 分間放置する。



図10
注入器を振って、かき混ぜる



図11
チューブに薬液を注入する

注意事項

- 注入器の中で薬を懸濁した状態のまま、長時間放置しないでください。
- 薬の投与後は、必ず人肌程度のお湯（20 mL～50 mL 程度）でチューブ内を洗い流してください（フラッシュ*）。☎やけどに注意してください。
- 注入器・カップはミルトン、ピューラックス、ハイターなどで毎日消毒し、よく乾燥させて使用してください（なお、通常、注入器は1回のみ使用可能です）。

このような場合には 薬剤師にご相談を

- 全ての薬の投与が簡易懸濁法で行うことができるわけではありません。簡易懸濁法が可能であるかは、あらかじめ薬剤師にご相談ください。
- 多くの場合、数種類の薬を同時に懸濁しても問題ありませんが、色が変わったり、固まりが生じたりする場合には必ず薬剤師にご相談ください。
- 押し子の動きが悪くなったら、医師・薬剤師・看護師にご相談ください。
- チューブが詰まる場合には薬剤師・看護師にご相談ください。
- 飲む水の量に制限がある患者さんは、あらかじめ、医師や薬剤師に確認してください。
- 注入器やチューブは各施設でお渡しする方法が異なります。あらかじめ主治医や薬剤師などにご相談ください。
- 本件に関することでわからない点がありましたら遠慮なく薬剤師にご相談ください。

この簡易懸濁法患者さん説明用パンフレットは、日本服薬支援研究会が作成したものです。

患者さんの安全第一を考え、適切なお対応およびご活用をお願いします

なお、本パンフレットは、医療従事者の責任の下で適切に患者やその家族に説明のうえ使用し、記載の正しい使用法によって生じたいかなる問題についても、日本服薬支援研究会はその責任を負いかねます。

本書内容の無断転用はお断りいたします。

2020年7月1日 初版発行

日本服薬支援研究会